

戦争と神

平和祈念礼拝

2017/8/6

戦争と神は不可分である

- 中東における戦いはキリスト教とイスラム教の戦いのように思われている
 - IS(イスミック・ステート)はイスラム教の過激派、対する欧米諸国はキリスト教
 - ユダヤ教の国であるイスラエルと周辺のイスラム教諸国との争い
- 第2次世界大戦の際に日本では天皇が「神」とされ、天皇陛下のために戦うよう教えられた
 - 「教育勅語」「神風特攻隊」

戦争と神が結びつく理由

- 戦争に崇高な(嘘の)目的を与える
 - 本当は領土拡大や復讐が目的であるのに、それを隠すために「神」を持ち出す
 - ただの人殺しを「**聖戦**」と呼ぶ
- 人を殺すという大罪を正当化する
 - 神が許しておられる
 - 敵は「**我らの神**」の敵である
- 死を美化する
 - 死を美化する: 殉教
 - 死後を美化する: 天国に行ける(優遇される)
 - 神として祀らる(靖国神社)

戦争と神を結びつけた我が国

• 教育勅語

- この国を天皇の国、国民を天皇の民(臣民)とした
- 天皇のために命を投げ出して戦うよう教えた
 - 「一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ(テンジ ヨウムキュウノコウウンヲフヨウスベシ)」

• 靖国神社

- 「国を守るために尊い生命を捧げられた246万6千余柱の方々の神霊が、…すべて祖国に殉じられた尊い神霊(靖国の大神)として齊しくお祀りされています。」(靖国神社のHPより)
- 祀られているのは戦闘員のみ!

聖書における戦争

• 旧約聖書における戦争

– イスラエルの民と先住民、あるいは周囲の国々との戦いが多く記されている＞戦い好きな神様？

• しかし、領土拡大のための侵略戦争はしない

– ダビデ・ソロモンの時代ですらパレスチナ入植の際に定められた地域以上に拡大していない

• 戦いを美化したり、戦死者を特別扱いしない

– 主なる神を信頼するための戦い(例:エリコ)

– 聖書における「殉教」は教えに殉じる(ステファノ)ことで戦いで死ぬことを意味しない

• 「殉教」:言語の意味は“証人”

聖書の神は平和の神

- 天地万物を創造し、人間をお造りになった神は人間同士の殺し合いを悲しまれる
 - 「殺してはならない」(十戒)
- キリストは戦争どころか暴力を否定された
 - 「右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」
 - 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」マタイ5:9
- キリストは平和をもたらすために死なれた
 - 「キリストの平和があなたがたの心を支配するようになさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。」コロサイ3:15

戦争に神を利用する

- 戦争の原因は人間の欲望である
 - 「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。」ヤコブ4:1
- 戦争を起こす者たちは神を利用する
 - 殺し合いなどしたくない人たちを駆り立てるために
- 神を利用して戦争する者たちこそ悪である
 - 神(宗教)が悪いのではなく、それを戦争に利用する者たちが悪いのである
 - ジョン・レノンが“宗教がなければ平和がくる”と歌ったが…

イザヤ書 9章5節

ひとりのみどりごがわたしたちのために
に生まれた。ひとりの男の子がわたし
たちに与えられた。権威が彼の肩にあ
る。その名は、「驚くべき指導者、力あ
る神、永遠の父、**平和の君**」と唱えら
れる。